

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	酒寄 久
303	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	
的	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952			
					実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,632	42,000		
		②青少年人口	人	見込値				8,000	7,800	7,600	7,400	7,200	7,000		
					実績値	8,880	8,636	8,153	7,871	7,601	7,317	6,914	6,819		
的	心豊かにたくましく育つ	成果指標名	単位	区分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
					①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	%	目標値			45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
								実績値	—	47.6	49.0	46.0	51.3	46.3	48.4
					②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	人	目標値				600	600	600	600	600
実績値	780	601	507	680				695	0	610	682				
	的	成果指標設定の考え方				○健全に生活でき、親子のコミュニケーションがとれていれば心豊かにたくましく育っていると考え、アンケート調査の(中学生までの子供を持つ保護者)「家庭において、お父さんと、どの程度の会話をしていますか。」において「悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合」で把握する。 ○心豊かにたくましく育ってもらうためには、地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数(自分の子ども以外を指導育成しているかどうか)、青少年が参加した活動の参加人数の割合で把握する。保護者世代に対する意識をもってもらい取組み。									
成果指標の把握方法と算定式等						○桜川市の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○市民の未成年者(20歳未満の市民)は、各年4月1日の住民基本台帳による ○地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、社会環境浄化活動等の参加人数の割合(保護者世代に対する意識をもってもらい取組み。)									

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○「地域の子供は地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、地域全体で青少年の健全育成を図る。	○地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活できる環境を創造する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○少子高齢化にともない、地区(小学校)単位で行っていた事業が、事務事業の平準化により、市一本化で実施する傾向にある。市単位で事業を実施することによって、参加者(子ども達)が制約され、底辺の活動が停滞する可能性が高い。「青少年の主張大会」などは市で実施することによって、より効果が上がると思われるが、子ども達の「生きる力」を育むための体験学習活動は地区(小学校)単位で実施したほうがよい。 ○地域の連帯意識が薄れ、地域教育力の低下が叫ばれている中で、子ども達の体験学習事業等に地域の三世帯が参加することによって、地域の連帯感の高揚にもなると思われる。 ○地区により、行政が主体的に実施するものと、市民会議や学校等が主体的に取り組んでいるなど差がある。 ○取り組む事業は地域の特性に合わせて行うことが理想であり、取組みを継続していくことが重要である。	○立志の集い。(真壁地区、市民会議で実施していた。)、岩瀬・大和地区(行政の補助金で実施していた。)運営方針や体制を統一してほしいという要望があった。 ○子どもに不便さを体験させたいという意見がある。(野外体験などを実施している。) ○三世帯の集いを復活させてほしいという意見もある。(コミュニティスクール事業と連携するとよい結果が出た。) ○高齢者と子どもたちのふれあう場を企画実施してほしいとの意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 青少年活動の充実	青少年	生きる力を身につける	①体験教室の開催回数	実績値	60	56	45	31	30	29	46
				回							
② 家庭教育の充実	青少年の保護者	家庭での教育力を高める	家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	実績値	46.0	33.0	46.0	51.3	46.3	48.4	47
				%							
③ 地域教育力の充実	地域住民	地域の教育力を高める	地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	実績値	601	507	680	695	0	610.0	682.0
				人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度実績
	①本施策を構成する事務事業の数	件	16	14	12
②施策事業費(一般財源以外)	千円	100	121	122	
③施策事業費(一般財源)	千円	3,672	3,540	3,686	
④施策事業費の計(②+③)	千円	3,772	3,661	3,808	
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	15,352	13,315	17,744	
⑥計(④+⑤)	千円	19,124	16,976	21,552	

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	事務事業		コミュニティスクール事業
事務事業		青少年相談員運営事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業		放課後子どもプラン推進事業「放課後子ども教室」	H27貢献度上位
事務事業		青少年育成桜川市民会議運営事業	H27貢献度上位
事務事業		市子ども会育成連合会運営助成事業	H28優先度上位

施策番号	303	施策名	青少年の健全育成	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合は、25年度51.3%、26年度46.3%、27年度48.4%、28年度47.4%で1ポイント減少している。</p> <p>・青少年相談員が青少年が多く集まる市内で行われる祭事等で巡回指導を実施した回数は、22年度から25年度までは、毎年度8回(真壁祇園祭3日・岩瀬祇園祭2日・岩瀬盆踊り1日・大和地区夏休み2日)実施した。26、27年度は1日減り7回実施しました。28年度は8回実施しました。「青少年の健全育成に協力する店」等の訪問・登録促進活動については、26、27、28年度は130件の登録活動を実施しました。巡回指導及び店舗訪問活動は青少年相談員の根幹的な活動であり、地域全体で見守る体制づくりに努めている。なお巡回指導における青少年への指導・保護の事例及び問題事例の発生はない。</p> <p>・地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、青少年育成桜川市民会議を中心に実施している「青少年のための社会環境浄化活動」の参加人数である。24年度は680人、25年度は695人、26年度は雨天で中止となった。27年度からは予備日を設定し実施しました。27年度は610人、28年度は682人で増加している。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合は、28年度の目標値50.0%に対し47.4%と2.6ポイント目標値を下回った。</p> <p>②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、28年度の目標値は600人に対し682人と増加した。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・桜川市の青少年の健全育成事業は、他の自治体とほぼ同水準であり、多くの事業に取り組んでいます。なお、市民会議主催「青少年の主張大会」の運営方法の見直しを行い、市内中学校5校を持ち回り開催とし、28年度は大和中学校で、場所は「シトラス」で実施しました。</p> <p>・あいさつ声かけ運動にあつては、青少年育成市民会議・青少年相談員・行政区長が中心となり、JR水戸線岩瀬駅、及び市内小・中・高等学校門前で取り組んだ。桜川市は市内の高等学校も積極的に参加しております。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・青少年の健全育成事業として市内の全120行政区から地区会費を徴収して様々な事業に取り組んでいることから、住民が期待する青少年の健全育成に対する期待の大きさが同われる。よって長年行ってきた青少年健全活動が市民に浸透していると思われる。相談員が巡回指導した回数や店舗訪問数、また社会環境浄化活動などの青少年育成事業への参加人数等では判断しがたいものがある。</p> <p>・総合計画後期計画の策定時におけるアンケート調査では、この施策における住民の優先度、満足度も低く改善改革が必要である。結果、今後青少年健全育成活動を地道ではあるが継続的に進めていく必要がある。</p>		

7. 総合計画後期基本計画(H24~28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	<p>・地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活ができる環境の場を作った。</p>
基本事業	<p>①青少年活動の充実</p> <p>・各小中学校区では、保護者、育成関連団体等で選出された実行委員会を中心に学校、地域と連携しながら、週末における学校外活動を支援しています。この活動は、各地域の特色を生かした家庭づくり運動、小中学生の育成活動として「地域の教育力」の育成・強化に役立ってきました。</p> <p>・国、県の補助金を活用し、小学生を対象とした、体験教室「わくわくチャレンジ」を土曜日に開催し、子どもたちに体験することの楽しさや、学校との垣根を越えた交流など、週末の活動の場を提供している。</p>
	<p>②家庭教育の充実</p> <p>・各小中学校の1年生の保護者を対象に、家庭教育学級を開催し、親子や保護者の交流を図り、親子の触れ合いや、保護者間の悩みの相談などができる環境の整備など図り、家庭教育の充実に努めた。</p>
	<p>③地域教育力の充実</p> <p>・地域における青少年対策推進の中核として活動するため、青少年相談員が設置されました。</p> <p>・研修会、夏祭り等の街頭指導、有害図書等自動販売機の立入調査、環境浄化キャンペーン、あいさつ声かけ運動、社会環境浄化活動、青少年の主張大会をおこなってきました。</p> <p>・次代を担う青少年が希望を持ち心豊かにたくましく成長し、社会の一員として自立できるような場を作った。</p>